清央小だより

令和７年度　第１２号
２０２５．７．１

教育目標	
	「夢いっぱい　友だちいっぱい　清央小」
	・自ら学び工夫する子ども　（考 え る）
	・元気でがんばる子ども　（鍛 え る）
	・礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

※ 本文は，ユニバーサルデザインのフォントを使用しています。
※ ホームページに掲載する際は，画像を一部加工することがあります。

HP＞　https://www.ueis.ed.jp/school/kiyohara-c/

栃木ブレックス　バスケットボール講座実施

６月 24 日（火）に，栃木ブレックスのコーチによるバスケットボール講座を実施しました。５・６年生がそれぞれ１時間ずつの短い講座でしたが，動きやボールに慣れる遊びを取り入れながら，だれでも楽しくできるよう工夫されていて．児童も楽しそうに取り組んでいました。ミニバスをやっているお子さんが上手なのは分かりますが，そうでない子もちょっとしたアドバイスで上手にできていました。コツをつかむのが上手なのでしょう。

１ 年生が本校に入学する前の３月から数回，入学準備号として新入生の保護者向けに「清央小だより ぷち」を発行しました。その中で，いずれ在校生の保護者の皆様にもお伝えしようと思っていた内容を，少し改変して掲載します。お読みいただければ幸いです。

なぜ昔から「子供のけんかに，親は出るな」と言われているのか

子供は，まだまだ話すことが達者ではありませんので，相手に言葉で思いが伝わらない時など，衝動的に手が出てしまうことがあります。それが元で，当然喧嘩も起きます。こんな時，子供をかばって，つい親として口を挟みたくなるのも分かるのですが，大きなけがを負った場合でなければ，これまでの経験上，必ずしもそれがよい結果になるとは限りません。

なぜなら，こうした出来事をとおして，子供たちは人との関係を学び，成長していくからです。「なぜ手を上げてしまったのか」，「なぜ手を上げることになったのか」などを考え，まずいところは反省し，自分で直していくことが大切です。学校では，学級を中心として人間関係を学んでいきます。そのため，本人たちが納得し合い，許し合って，その後はよりよい学校生活を送ることが，学校教育の目標の一つでもあります。子供には，子供の世界観があります。喧嘩をしても子供同士は，案外乗り越えていくものです。子供の持つ力を信じましょう。

昨年ある心療内科の先生のお話を聞く機会があり，最近では，本来子供自身が解決していかなければならない課題を，親が自身の課題として捉えてしまい，好ましくない状況をつくり出してしまう事例が，よくあるとのことです。例えば，子供の問題を解決することが話合いの目的なのに，いつの間にか親自身が納得することが目的になってしまっている，というような場合です。こうなってしまうと，結果として子供は自分の問題に気付けず，成長する機会を逃してしまい，何の解決にもなりません。少し難しい子供の宿題を，提出しないと注意されたり，成績に影響が出たりするかもしれないといって，親がやってしまうようなものです。それは，子供の成長にとって，果たしてよいことなのでしょうか。

子供の成長を願うのは，親も教師も同じです。ともに頑張っていきたいと思います。

※学校の様子はホームページでも掲載しています。今月から URL が変更となっています。ブックマーク等ご注意ください。

（文責・写真：校長）